

新型コロナウイルス感染拡大防止のための東北大学行動指針（BCP）（2020年4月7日）に基づく

極低温科学センター/金研（片平）のヘリウム・液体窒素供給計画（2020年4月7日）

段階	研究活動 (大学 BCP)	液体ヘリウム供給 (一般実験用：金研強磁場セ ンターを含む全研究室等)	液体ヘリウム供給 (NMR 装置維持 対象： AIMR・メガバンク・多元研)	液体窒素供給 (金研 1 号館)	液体窒素供給 (生命バイオ系試料維持 対象：生命科学研究所)	センター稼働状況・勤 務体制
0 通常						
1 一部制限	感染拡大に最大限の配慮をして、研究活動を行うことができます。	通常通り	通常通り	通常通り	通常通り	通常通り
2 制限一小	研究活動は続行できますが、感染拡大に最大限の配慮をしつつ、学生・研究員・研究スタッフ（研究室関係者）は現場での滞在時間を減らし、可能な場合は自宅での作業を検討します。	通常通り	通常通り	通常通り	通常通り	通常通り
3 制限一中	現在進行中の実験・研究を継続するために必要最小限の研究室関係者のみの立ち入りが許可されます。立ち入る研究室関係者は現場での滞在時間を減らすとともに、それ以外の研究室関係者は自宅での作業となります。	通常通り *1 供給量の制限は行わな いがレベル4に移行する場 合に、予告なく予約分も含 めて供給停止となること を考慮した実験計画を要 請	通常通り	通常通り	通常通り	常勤技術職員：通常通 り 准職員：通常通り 一部教員：部分在宅 非常勤職員：完全在宅
4 制限一大	以下の研究スタッフ（事情によっては大学院生・研究員も可）のみ研究室への立ち入りが許可されます。できるだけ交代制とし、立ち入り者相互の面談を避けることとします。 1) 中止することにより大きな研究の損失を被ることになる、長期間にわたって継続している実験を遂行中の研究スタッフ 2) 進行中の実験を終了あるいは中断する業務に関わる研究スタッフ 3) 生物の世話、液体窒素の補充、冷凍庫修理など研究材料の維持あるいはサーバーの維持のために一時的に入室する研究スタッフ	供給停止 *MPMS などの保冷も中止 (回収ヘリウムガス量を減 らすため)  ヘリウムガス回収は継続	装置維持のための必要最小限の供給 *供給装置、供給日、供給量を限定  ヘリウムガス回収は継続	供給時間、供給日を限定 (週 2 日*2)  もしくは  大型容器で事前供給：供給先で管理	供給時間、供給日を限定 (週 2 日*2)  もしくは  大型容器で事前供給：供給先で管理	週 2 日運転*2 常勤技術職員 3 名中 2 名 管理教員 1 名 センター長 1 名 非常勤・准職員：完全在宅  業務 回収ガス液化 NMR 用ヘリウム充填・ 配送 メガバンクガス受取 液体窒素供給
5 原則停止	大学機能の最低限の維持のために、部局長など組織代表者の許可の下で、生物の世話、液体窒素の補充、冷凍庫修理、サーバー保持などを目的に、一時的に入室する研究スタッフのみの立ち入りが可能です。 この場合、原則交代制とし、立ち入り者間での面談は禁止します。	供給停止  ヘリウムガス回収は継続を試みるが場合により大気放出	装置維持のための必要最小限の供給 *供給装置、供給日、供給量を極めて限定  ヘリウムガス回収は継続を試みるが場合により大気放出	供給停止	試料冷凍維持等に必要最小限の供給 (大型容器で事前供給：供給先で管理)	(不定期運転) 常勤技術職員 3 名中 2 名 管理教員 1 名 センター長 1 名 非常勤・准職員：完全在宅 業務 回収ガス液化 NMR 用ヘリウム充填・ 配送 メガバンクガス受取

\*1 ヘリウム供給量を減少させても勤務体制を縮小することができないため \*2 ヘリウム液化運転時（職員勤務日）に合せて液体窒素供給

注) センターで感染者、濃厚接触者、健康観察者が生じて、施設封鎖・人的不足が生じた場合は上記によらず全供給停止